

令和 7 年度第 1 回地域福祉計画推進会議 会議録

1. 開催概要

日 時 令和 7 年 7 月 22 日 (火)

場 所 川崎区役所 10 階会議室

出席委員 (敬称略)

飯嶋委員 (川崎市南部基幹相談支援センター 職員)、木村委員 (公益財団法人川崎市老人クラブ連合会 理事)

七條委員 (あいせん保育園 園長)、寺崎委員 (川崎市介護支援専門員連絡会 川崎区支部長)

中島委員 (しおん地域包括支援センター センター長)、平野委員 (市民公募委員)

服部委員 (川崎市川崎区社会福祉協議会 事務局長)、牧岡委員 (共育ひろば主宰・社会学博士)

宮越委員 (川崎区地域教育会議 議長)、宮田委員 (田島地区身体障害者協会 会長)

本橋委員 (川崎区連合町内会 理事)、山木委員 (川崎区民生委員児童委員協議会 副会長)

渡邊委員 (川崎区医師会 総合川崎臨港病院 理事長)

事務局

山崎区長 (川崎区役所)、町田所長、若尾副所長 (地域みまもり支援センター)

早川課長、三ッ橋係長、柴田 (地域ケア推進課)

オブザーバー

曽我課長 (地域支援課)、笹島課長 (高齢・障害課)、石田担当課長 (保育所等・地域連携担当)

2. 議題

- (1) 川崎区の「地ケア」説明について
- (2) 第 7 期令和 6 年度川崎区地域福祉計画の評価について
- (3) 令和 7 年度 地域づくりの方向性について
- (4) 第 8 期地域福祉計画策定に伴う川崎市地域福祉実態調査について
- (5) 情報交換等
- (6) その他

3. 配布資料

- ・ 会議次第
- ・ 川崎区地域福祉計画推進会議委員名簿
- ・ 川崎区地域福祉計画推進会議開催運営等要綱
- ・ 資料 1 地ケア de 落語出前講座紙芝居資料等
- ・ 資料 2 第 7 期川崎区地域福祉計画(令和 6 年～令和 8 年度)令和 6 年度評価 (案)
- ・ 参考 1 区計画評価区計画評価の考え方
- ・ 資料 3 令和 7 年度の地域づくりについて (経過)
- ・ 参考 2 地区別ブロック会議意見まとめ
- ・ 資料 4 第 8 期地域福祉計画策定に伴う川崎市地域福祉実態調査について

4.意見要旨

(1) 川崎区の「地ケア」説明について

地域包括ケアシステムの理解促進を目的とした「地ケア出前講座」での地域包括ケアシステムに関する紙芝居を事務局が実演し、今後追加を予定している資料の内容について意見を求めた。

(牧岡委員) 要点を3枚に絞っているのはよい。

(平野委員) 睡眠の重要性も加えた方がよいのではないかな。

(服部委員) ただ話を聞くだけではなく、紙芝居等で視覚的に見せると記憶に残る。

(2) 第7期令和6年度川崎区地域福祉計画の評価について

資料に沿って評価の内容について事務局から説明。内容や評価に対して意見を求めた。

(山木委員) 昨年度開催したカレーサロンは毎月やってくれないと言われるほど好評だった。今年度は4回実施を予定している。男性の独居高齢者の居場所づくりとして開始した取組だが、田島いこいの家で実施したサロンは男性の割合が桜本で実施した時より少なかったのでアピール方法を工夫したい。

(牧岡委員) 川崎聖風福祉会実践研究発表大会の中でカレーサロンの取組が部分的に取り上げられていた。施設側にとっても地域の取組に関わることで担い手の人たちと顔の見えるつながりづくりができ、場所を提供するだけではなく、協働で実施するスタイルに手ごたえを感じているという発言があった。

(牧岡委員) 評価の内容について、目標1・2・3で分かれているが、2と3については担い手を発掘し、育てていくというところに重きを置いているかと思う。目標2については、間口はできたが担い手になってもらうには次のステップが必要な印象。目標3については、担い手の発掘に広がっていて、この担い手が議論し、成果を確かめ合うような場ができ始めるとよいのではないかと感じた。

(3) 令和7年度 地域づくりの方向性について

資料3に沿って、地域の課題や現状を併せて事務局から説明。委員が感じる地域の現状や課題、地域づくりの方向性への意見を求めた。

(牧岡委員) 田島地区では男性の独居高齢者の他区に比較して多く、1990年代に調査を行ったときには男性も女性も結婚歴のない人が目立っていた。男性の独居高齢者の中には、結婚していたが仕事で川崎に来て、そのまま家族との関係を断ってしまっているという姿も見られていた。

(宮田委員) 川崎区の特徴としては、古い建物が多い印象がある。そういうところで住んでいる人たちの生活はどうなっているか見えにくい。

(本橋委員) 一軒家が建っていた土地に建売住宅がたくさん建っている。建売に引っ越してくる人はほとんど町内会に入ってもらえず、外国人の方も多い。マンションも建っているが、ほとんどがワンルームのマンション。

(牧岡委員) 昭和40年～50年代に田島地域に戸建て住宅、マンションに住み、その後子ども達が育ち家を出て、高齢者世帯になっている。そのなかで、生活費のための収入確保がたいへんな階層と年金などで一定確保できている階層など、階層分化見られ、それが自治会活動・地域のつながり作りの障壁になっている姿も見られている。生活困難な世帯は、地域付き合いから遠ざかり、孤立的な日常になってしまう。

（宮越委員）住んでいるマンションは地域に溶け込んでいるが、最近建っているマンションは町内会や地域に繋がっていくような感じではない。

（本橋委員）盆踊りの祭りを開催したが、音響の設備が使えず、調べてみるとスピーカーの線が故意に切断されていた。別の音響設備があったため、つなぎ直して使ったが、同じように切断されてしまっていた。このような事件もあるので、公園にも防犯カメラをつけていただきたい。

（渡邊委員）一回入院すると、家に帰れる人が少ない。同居してくれる息子や近所に住む娘がいる等の環境がない人が川崎区は特に多い。所得のある人は有料老人ホームに入るが、お金がないと小さい民間の施設に入るしかない。

（牧岡委員）大島中島地区について、町内会と地区社協の役員が全く一緒であるため、活動を行っていてもどちらの役割としての活動か整理がされていない。そのため、地区社協の活動が成り立っていないように見えるが、活動は穏やかに行われている。

（飯嶋委員）地域づくりを行う上で障害についての視点がない。お祭り等にも参加して地域と繋がりをもっている作業所もたくさんあるが、こういう時に話題として上がらないことが非常に気になった。作業所や相談支援センターが少ないエリアと昔からあり、活発に地域に馴染めているエリアがあると思うので、そういったところがもう少しここにも見えてくると良い。

(4) 第8期地域福祉計画策定に伴う川崎市地域福祉実態調査について

資料4に沿って事務局から説明。ヒアリング団体の選定等について意見を求めた。

（山木委員）民生委員の一斉改選があるため、アンケートやヒアリングの日程が調度その時期と被っているので、12月2日以降に調整してほしい。

（牧岡委員）ヒアリング団体について、若い層の声が反映されないと感じた。他の調査で拾っていくのであれば良いが、前向きに活動をしている若者の意見が反映されるようにしてもらいたい。本当は、団体ヒアリングだけではなく、アンケート調査についても職員が一緒になって動いて、直に話を聞くことでいろいろなものが見えてくる部分もあると思う。

(5) 情報交換

（平野委員）人間にとって必要なのは、運動だと思うので、運動を促進させるために、各自の基礎代謝手帳等を作成して、基礎代謝が運動によって少しずつ増える楽しみを感じてほしい。

（服部委員）行政が地区社協の活動をあまり把握しきれていないとの話があったが、宮前区では、地域みまもり支援センターの職員と、地区社協が年に2回くらい程、話をする機会を設けたり、地区社協の行事を見に来てもらったりしていた。川崎区でも、そのような繋がりができると良いと考えた。

（寺崎委員）ロフト付きの新しいアパートでも生活保護基準ギリギリの値段が設定されていると、高齢者がそこに入ってしまう。他にも外国人や若者等様々な人が入居している。そのようなアパートは地域に溶け込んでいるような雰囲気はなく、どこかに繋がっているのか、どのように生活しているのかが全く見えない。

（七條委員）育児休業制度の充実により、0歳児から入園する子は少なくなっている一方で、外国に繋がるこどもの0歳児からの入園が増えている。今年は9人の枠のところ5人が外国に繋がる子どもで、両親は日本語を理解できない、話せない人が多い。離乳食等の文化の違いもあり、「これをやってください」と保護者にお願いするだけではなく、一緒に経験してもらおう等園の方が歩み寄っていくことが重要な時代なのではないかと思っている。

（木村委員）定年の延長や働き方改革等政府の方針があり70代や80代でも働いている人が多い時代となり、老人クラブの運営自体が厳しくなっている。また、地域で認知症の課題はあるが、認知症の人を地域で見守ろうとしても、本人は認知症だと認識しておらず、家族は身内が認知症であること自体を隠したがつまづいてしまいがちな状況で把握することが難しい。

（飯嶋委員）高齢者の方も当てはまるかと思うが、親が亡くなり、1人で残されてしまうと障害者は大抵グループホームに入居することが多い。しかし、川崎区にはグループホームが非常に少なく、やむなく川崎区を離れて地縁のない地域に引っ越すことになってしまう。地域の人から見てもいつの間にかになくなってしまうという状況も多いのではないかと考えている。

（宮田委員）前は川崎区に3つの当事者団体があったが、今は1つ（田島地区）のみになってしまった（原因は高齢化）。3地区のことを一手に引き受けることになる。

（宮越委員）富士見公園の冒険・土の広場が本格的に開始した。たくさん子どもに来てもらっているが、富士見公園は中高生のたまり場にもなっており、公園の中の治安が悪いので少し心配。元々市民参画で運営会議を行う想定をしており、先日その1回目を実施した。たまり場にしている子どもたちを取り締まりの対象とするのではなく、その子たちも一緒に公園を作っていく中に入ってもらえるような仕掛けを考えていきたい。

（本橋委員）渡田向町の盆踊りでは、小学生が運動会で踊っている「いいじゃんダンス」を舞台上で踊ってもらうなど、若い世代に盆踊りに参加してもらえるように工夫した。普通の盆踊りでは、踊る人がそのうちいなくなってしまうことを見込んで、いろいろな工夫をしていきたい。

（山木委員）浜町2丁目の子育てサロンに中学生の体験学習ということで、5名ほど受け入れて実施する。また、みんなのごはんとして、7月24日に東綱会館25日に浜町4丁目町内会館で実施する。今回から田島支援学校にも対象としたい児童がいるという情報をいただいたので、若干声をかけている。さらに、現在決まっているカレーサロン日程は田島いこいの家が9月26日、桜本いこいの家が10月27日で実施する。

（渡邊委員）従来、病院の往診車等に宣伝のために車の横に「〇〇サービスセンター」や「リハビリやります」等と書いているが、その車が止まっていると、この家にはこういう人が住んでいるということが分かってしまうので、車にそういったCMを出してしまうこと自体良くないのではないかと考えている。いろいろな見方でまちのセキュリティについてみんなで協力して考えることも必要なのではないか。

（中島委員）しおん包括では、体操のイベントを大事にしている。最近では、要望があったところにはほえみ元気体操やコグニサイズなどで伺う活動をしている。何件か声をかけていただき、新たな町内に伺って、体操を普及することができた。また、最近の相談業務では、貧困だが生活保護の対象ではなく、ギリギリで生活していた人が認知症等になり、困窮に陥った方の相談があった。その時に社会福祉協議会の食糧支援にはすごくお世話になっている。子どもの貧困だけではなく、高齢者の貧困の相談も増えている。

（牧岡委員）20年前に建ったあるマンションでは全体で町内会に加入していたが、2年ほど前から町内会から抜きたいという話が出ていた。居住者のうちの3分の1は「抜けるわけにはいかない」という意見だったが、居住者の代表の意向が強く、最終的に脱会してしまった。新しく建ったマンションが町内会に入らないという話はよく聞くが、それを一歩超えて町内会に加入していたにもかかわらずこのような形になってしまった。これからもこういう事象が増えていくのではないと思う。福祉の立場から見ると、こういう形で地域のつながりから離れていく人たちこそが、実は地域的支援を必要とする予備軍的住民になっていくような気がする。

以上